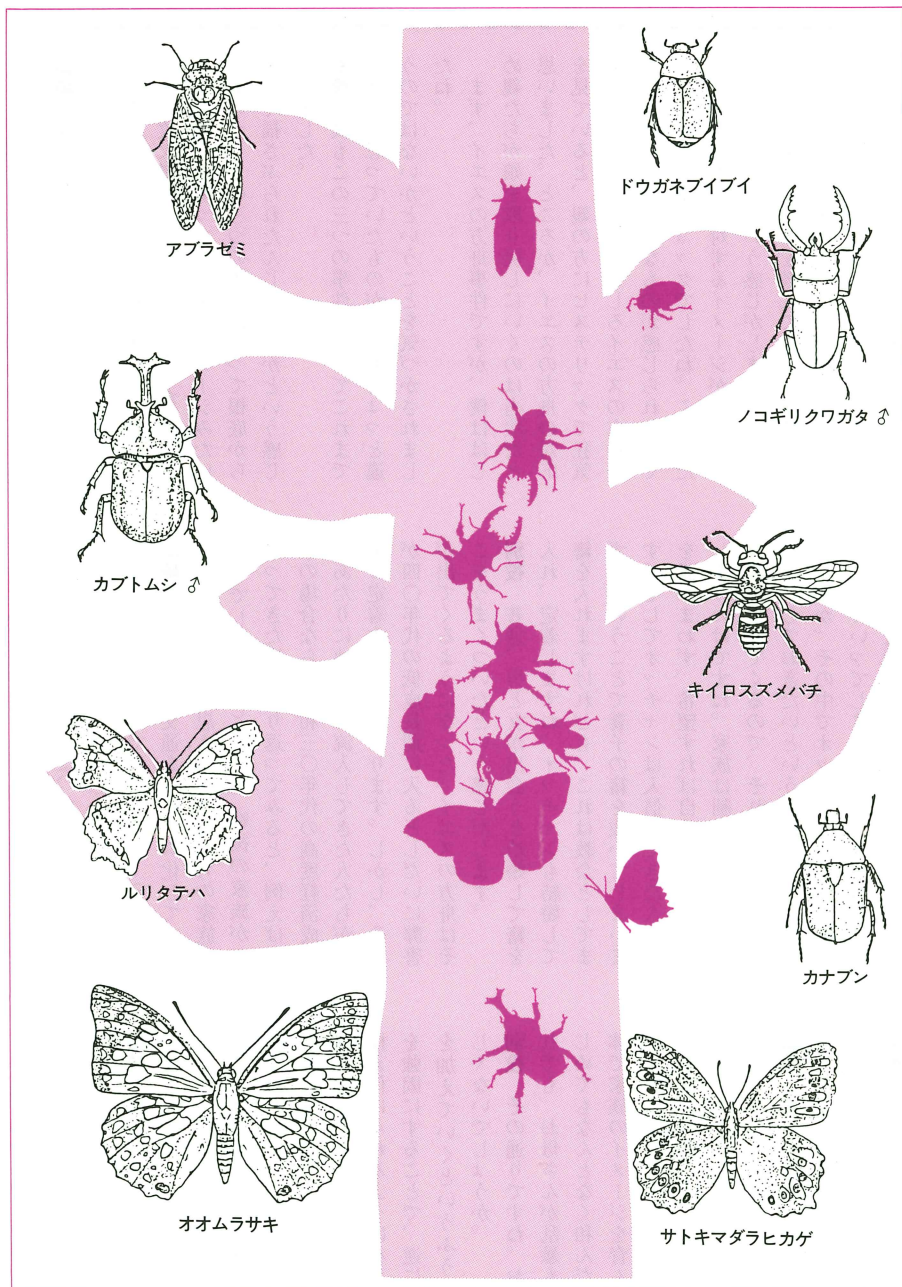


SEMINAR HOUSE NEWS

セミナー・ハウス'88夏



- 対談 犯罪の家族誌
|| 第143回大学共同セミナー ||
- よくわかる家族のはなし
- 昭和62年度 教育プログラム白書 / 業務白書
- 表紙に寄せて——夏の森のヒーローたち



対談 犯罪の家族誌

劇作家 別役 実 劇作家 山崎 哲

山崎 僕が家族を考え始めるようになったきっかけは、一九八〇年に起きた「イエスの方舟事件」、「金属バット殺人事件」、「新宿西口バス放火事件」という三つの事件からです。今まで僕らもっていた家族イメージみたいなものが、この三つの事件によって根底から大きく揺さぶられたんじゃないかという感じがしました。

別役 僕もこの三つの事件によってこれまで家族だと思っていたものがどうもちよっと違うのではないかということを感じられました。

まず、イエスの方舟事件ですが、僕ははじめ親たちが娘を取り戻しに行くのは当然だと思っていました。ところが、イエスの方舟の対応を見ていると、親の方にヒステリックで狂気に満ちたものを感じ、むしろイエスの方舟の方には知的、理性的なものが感じられたんです。これが一番ショックでした。このあたりから僕の家族に対するイメージがちよっと逆転していったという感じがします。

芹沢俊介さんの本を読んで僕が一番感心したのは、例えば家の中に一つしかないお便所をどう使うか、順番とか掃除をどうするか、というような対人関係の交通整理のことをこと細かに話していることなんですね。家族というのは既成事実のようなもので、なんとなく自然に任されていますが、イエスの方舟はその部分をかかなり細かく掘り起こしているような気がします。それはあたかも、近代ヨーロッパにみられたような独立した個人相互の契約関係によって対人関係を構成していくという過程を踏襲しているかのようには見え

②

ます。そういう意味では、当時の家族に対する唯一のアンチ・テーゼをイエスの方舟は出していったといえるのではないのでしょうか。

山崎 対人関係の交通をシステム化していたことが、今にして思えば娘さんたちの家族を逆なでしたんでしょうね。戦後の家族がどつてきた道を振り返ってみると、例えば東京の場合なら、昭和三〇年代の高度経済成長期あたりに地方から流入してきた人たちが次第に定着するようになります。しかし、それが四〇年代の低成長期に入るとしだいに弊害が出てくるようになった。イエスの方舟はそこをうまくついたという感じがします。

別役 普通、男と女が出会うと結婚して籍を入れ、定着しますね。オッチャンも結婚して籍を入れますけれども、これは教会としてまづいということと妻子の籍を抜いてしまいません。そしてオッチャンは入信してきた人たちを誰かまわらず、希望すれば自分の籍に入れてしまおうわけですね。家族は制度化した途端に弊害が生れてくるので、それを少しでもゆるやかにしておきたいという気持があったんでしょうか。その中でオッチャンの子供が集団から出ていってしましますが、あれが不思議ですね。血縁の関係があることによって、かえって不安を感じることがあるのかもしれない。

それから新宿バス放火事件というのがありましたね。僕らでも夕方バスに乗って帰ろうとするとときに一番家族というのを感じますが、犯人はこの家族に対してカッとやってやったと自供したそうです。家族は家族であることによって既に加害者になっていたんで

すね。放任していた犯人にとって家族は一つの脅迫するイメージにみえたんでしょうか。

山崎 僕らの世代はまだ地域共同体が残っていましたので、その中で家族をイメージできました。ところが高度成長期に入るとそれが解体しはじめ、家族が直接的に社会と向き合わなければならなくなった。だから家族としての防備を物凄く強固なものにしないと自分達を守ることができない、という脅迫観念が植え付けられるようになります。自らの家族を強固にすることで、逆に他人に対して脅迫を加えていくというふうに変換してきたんじゃないでしょうか。

別役 その通りですね。お父さんが飲んだくれでも、お母さんが乱暴もので子供たちをいじめてもなんとなく和んだ。なんとか地域全体で家族のイメージを育んでいたんですが、核家族になると、おれたちは家族だということとを常に周囲に向けて発表していかなくては家族ではありえなくなってしまう。だから家族としてのストレスが猛烈に高まります。

山崎 家族がそんなに背負わなくてよかったものまで背負わざるをえなくなってしまうということなんですかね。

別役 家庭的に恵まれない中学生が家出をして、中古車に寝泊りするうちに小学校五年生の男の子を誘拐し、車に乗せて連れまわるといふ誘拐事件が兵庫県でありましたね。連れまわっているあいだに、その誘拐された小学生が家に帰りたいと少年に訴えたと、お前が帰ると一人になると言って断ったっていうんですね。この少年は家族に絶望してしかるべき境遇にあったわけですが、やはりなお家



別役 実氏



山崎 哲氏

族的な関係の中でしか自分を安定させることができなかったというのですから、これもかなりきついことだろうなという感じがします。なんとなく家族のしがらみから独立して一人の人間になるといよりは、むしろ別の疑似しがらみみたいところへ移動していません。

山崎 ところで最近の事件をみてみると、どうも男のほうが家族に執着しているような気がしますね。(笑)

別役 男は今、家庭の中でどうしたらよいかわからなくなっています。例えば小学校低学年までは、そこに転がっている夕刊を「おい、ちよつと新聞とって」と素直に言えるのですが、小学校高学年くらいになると、そんなふうには言っちゃいけないのではないかと意識が入ってきますので、「悪いけど新聞とってくれない」というふうになるんですね。(笑) お父さんというのはどっちを言うべきか迷うんですね。きわめてつまらないことですけれども。そのときにおやじってなんだろうと考えてしまう。僕より上の世代は「おれが稼いで食わせているのだ」と自信をもつて言えた。しかし、今はそういうこと言っちゃ大人げないのではないかと思ってしまう。

その点、母親は安定しています。それは飯を食わせているせいなんです。ご飯はお母さんが用意し、お母さんがよそいでハイッとあげるわけでしょう。その関係というのはきわめて自然で具体的なんです。いくらお父さんがその飯を稼いだのは俺だといきがついてみても抽象的です。昔であれば長子相続制度があつて、この家を相続していくのは俺だと

いうことで抽象とぐつと結びつけることができませんでした。ですから、まずまず家族内における父親像をどう確立するかということが問題になりますね。

昔は地域全体でやる大掃除というものがあつて、重いタンスを持つたりして、お父さんが一番頑張った。それからヒューズを直せたのはお父さんだけだった。(笑) 今はカッチャンとやればお母さんでも直せます。するとお父さんの居場所がなくなってしまう。冗談みたいな話なんです。これは大きなことだと思えます。要するに家族というのが一つの仕事集団だったわけですね。そしてお父さんはそれを管理して、お母さんは居住集団としての家族を管理していた。この作業集団と居住集団との二重性のなかで家族というものがなんとなく機能して、それほど対人関係を明確にしなくてもなんとなくシステムとして動いていたんですね。

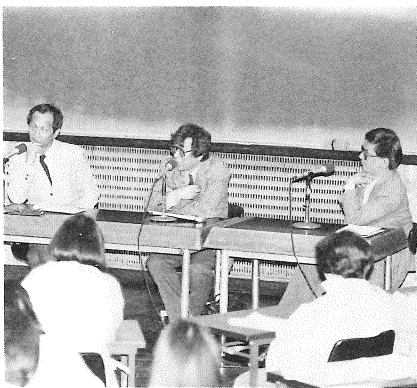
山崎 例えば電気洗濯機、ふとん乾燥機などいろんな家電製品が家庭に入ってきているわけですね。そうすると家族自体が持っている自然な作業分担みたいなものが壊れてきてしまった。そして家の中で何が残っているかというところ、直接向き合う「性」だけになったという感じがする。男と女の性だけが露骨に向き合ってしまう。僕なんかそればかりになってくると「逃げたいな」という感じがして、これからはこの性的関係としての家族のあり方が問われてくるのではないだろうか。

別役 ところで、最近名古屋で公園の噴水の回りに集まってごちゃごちゃしていた若者た

ちが、いきなりアベックを襲って二人をら致して男を殺し、半日後に女を殺したという事件が起きていますね。家庭がほぼ破壊されていた境遇にある少年たちが、噴水の回りという家庭でもない職場でもないところに集まって擬似共同体的なものを志向して、そこから得体の知れない犯罪に向っていったわけですね。家族内の犯罪が多くなったから、家族が破壊されているということではなく、むしろ家族そのものが家族でなくなっているということなんではないでしょうか。

山崎 横浜の浮浪者襲撃事件もそうなんです。結局、浮浪者を襲撃するということが自分たちの擬似共同体を確認していく一つの方法になってしまった事件だった、と読めるような気がします。

別役 もしかししたら八〇年代の三つの事件のときに家族の崩壊が始まっていて、家族が持っていたエネルギーが少しずつ喪失していたのではないのでしょうか。(文責・編集者)



右は司会の桜井哲夫氏

第143回 大学共同 セミナー

よくわかる家族の はなし

|| 主題 ||

▼主題に触れて

東京経済大学経済学部助教授

桜井哲夫氏

▼運営委員

桜井哲夫氏

袖井孝子氏

▼対談

犯罪の家族誌

劇作家 別役 実氏
劇作家 山崎 哲氏

▼セクション演習

A 親の自立、青年の自立

東京大学保健管理センター副所長
山田和夫氏

津田塾・武蔵・放送・和光・聖路加看護・静岡・広島修道・東京都立医療技術

立教大学学生相談所カウンセラー

平木典子氏

B 異文化の親子関係

法政大学経済学部助教授 山本真鳥氏

C ライフサイクルの変化と家族

お茶の水女子大学家政学部助教授

袖井孝子氏

D 家族史入門

——とくに欧米と日本の場合——

東京経済大学経済学部助教授

桜井哲夫氏

(注・B・D合同セクションで実施)

短期(各1)、その他(8)、以上26校

期 日
'88. 3. 11~13

家族ほど身近なものでありながら、これほどわずかのことしか知らないというものもないのではないか。この地球上には多くの民族がいて、多くの家族のかたちがある。人類すべてに共通するような家族のモデルなどありはしない。だからこそ、多くのひとびとが、多くのそれぞれ違った悩みを抱えている。現代の学生が抱えている家族にまつわる悩みごとにこたえる場を提供しつつ、同時に家族に

対する学問的研究へのきっかけをつくることを主旨に企画されたのが、本セミナーである。運営委員の桜井哲夫、袖井孝子の両氏による新鮮な味つけで、(家族は現代学生に受け入れられる関心事となり、昭和62年度最後のプログラムを飾るにふさわしい反響があった。個人的に抱えている家族の問題を相談したいという応募者がAセクションに集中したために、何人かは第二志望に回ってもらったことになった一方、Bセクションには応募者が少なかつたためにDセクションとの合同で行なわれた。

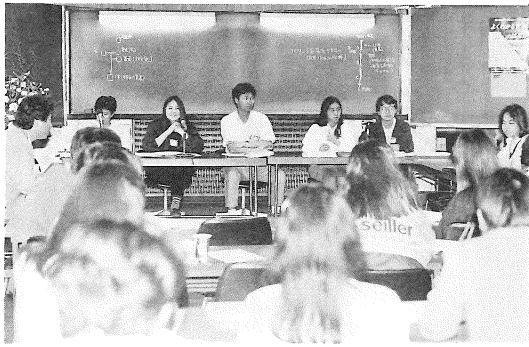
なお、運営委員の両氏をはじめ、多忙な中ご指導下さった別役実、山崎哲、山田和夫、平木典子、山本真鳥の諸氏に対してここに改めて感謝の意を表したい。

セミナーの冒頭、主題に触れながら桜井氏は家族の問題が人類にとっていかに大きな問題であるかを次の通り展開された。「一九世紀以来の近代という時代が作り出した特有の家族類型が、いまや近代の爛熟とともに疑問視され揺らぎはじめている。近代社会というものはあらゆるものを商品化する社会だ。これまで家族は支配秩序を維持するための道具として黙認され続けてきたが、この商品化の流れの中に大きく巻き込まれている。その結果、社会の大きな変動に家族が直面させられている。このことを見据えないと家族に今何が起きているのか、それがどれだけ人類にとって重大な問題であるか思い至らないということ指摘されたい。

初日の夕食後に行なわれた、別役、山崎両氏による対談は、家族の現在を鋭くえぐり出し参加者の想像力を大いに刺激するものであった。(詳細はフロント・ページ参照)

対談の後、両氏を囲んで質疑応答が行なわれた。その中で「家族から自立したいのだが」との質問に対して、別役氏は「家族が確固としていた時代の自立の問題とは状況が違ってきていること、つまり、いまの家族は「システムとしては崩壊してしまっている」から、それを批判しながら自立を果たすという「封建家族とそれから自立する近代的個人」といったような図式は成り立たなくなっていることを指摘。だから「得体の知れない家族」とそこから吸い出されたにすぎない。「家族の中の得体の知れない無意識の関係を引きずっている個人」が存在しているにすぎない。こうした「家族崩壊と同時に個人も個人になり得ない」という状況の中で何が必要かといえは、「家族がいまどう変わりつつあるかということを眺めながら、そして、その微細の部分について知っておくことではないか」と語られた。

また「家族の理想像とは」という質問に対して、山崎氏は「家族が今後どうなっていくかとどうでもよいことだ。どういふ家族であるべきかは、夫婦で決めればよい。互いに別居しながら週末ごとに会



各人の家族体験をぶつつけ合う——総括討論

う家族であってもよいし、互いに納得して作ってあげばどういふ家族のありかたであつてもかまわないのではないか。」つまり、山崎氏は家族の理想像は何か、というかたちで家族の個性、多様性を無視しエデオロギー的に一般化して語ることの危険性を強調された。

◇ 二日目の午後には、「家族の行方」をめぐるシンポジウムがあつた。

まず山本氏は、文化人類学の立場から西ポリネシアのサモア諸島での調査をもとに、いかに我々が持っている家族という概念が特殊なものであるかをスライドを駆使しながら指摘された。「サモアでは家族が、系譜的に様々な関係にある二〇人もの人々を含んでいて、しかもそれ

が実の親子関係にこだわらずに、生計を一にしている。親族が家族の総和としてあるのではなく、むしろ親族が便宜的に分割されているのがそれぞれの世帯であり家族である。われわれの描く家族は西洋型の核家族であつて、人類に普遍的なものではない。またサモアでは、子育てをするのは産みの親だけでなく、より広範な人々のネットワークの中で行なわれている、と近代の核家族がいかに特殊なものであるかを説明された。

続いて桜井氏は、出産や育児などあらゆる家族の領域において、家族が商品化の波に覆われ、家族の様々の機能が外部化されつつあることを指摘しながら次の通り発言された。「国家体制が与えた社会制度を全面的に信用しないという原則を持つことが大切だ。保育園や幼稚園を全面的に否定はできないけれども制度の中に安住しないで、常に制度に対する疑問を持ち続けることが今必要なことだ」と。

精神科医の山田氏は、思春期瘦せ症、過食症、拒否症などの症例を引きながら現代家族における母性の必要性を強調された。「性格発達レベルには、母性的援助を受けてクリアしなければならぬ段階と、父性原理の援助を受けてクリアしなければならぬ段階がある。幼児期から学童期にかけては、特に母性の情的支持が大切である。にもかかわらず、現代の家族では母性がアニムス化してエロスを忘れがちだ。母性は子供の性格形

成におけるエロスの部分に一番大きな影響を与える」と。

それを受けて学生相談所カウンセラーの平木氏も業績、能率ばかりが重要視される「目的指向型」社会の原理が家族の中で幅を効かせて母親的なもの、エロスのなものが失われているとして、家族をシステムとして捉える最近の家族療法をシステムとして紹介しながら指摘された。「子供の逸脱行動が出るとすぐに母親の育て方が悪い、学校が悪い、父親が悪いと限りない犯人捜しをするが、原因と結果は相互に関係し合っているものであり、犯人捜しをしても話にならない。システム論は、相手との関係をよりよいものにしていくことによつて、少なくとも今の家族が盲目的状態に陥らないようにすることを考えている」として、社会と個人の間にある家族の関係そのものを「自覚化する」ことの重要性を示唆された。

最後に家族社会学の立場から袖井氏は、いまや家族のあるべき姿について簡単にいえなくなつてきた、と家族の存立基盤について報告された。「かつては家族の中に自然発生的に生れてくる感情融合があつた。いまは同一家族に属しているという家族意識だけが家族を家族たらしめている。家族の物質的な、外的条件が整つた社会では人為的に、意図的に家族をまとめていく努力が必要である」と。ところが、それを忘れて「お互いにもたれかかるようになったとき家族はこわれやすくなるのではないか」と。

講師の発言を受けて、参加者から質問や意見が出された。まず山田氏が強調された母性とは何か、その定義を明らかにしてほしいという女子学生からの質問があつた。これに対して山田氏は「最近の母子関係論では半年から三歳までの間に勝負がつくと言われている。母性を厳密に定義することはできないが、それは素朴に考えている通りのものだ」と説明された。しかし質問者には、「だから母親が……」という固定した性別役割に対する批判があるようであつた。「必ずしも母子関係ということだけでなく、母親の代わりとなる人との関係でもかまわないのではないか。あるいはグループの中ではいろいろな人が育てるといふかたちでも母性原理を働かせることはできるのではないか」(平木氏)という発言は説得力があつた。

また幼児期に大事な情的部分の形成は、山本氏がいうようにネットワークといふかたちで補うことができるのかといふ疑問が、実際に保育園の経営に携わっている参加者からあつた。これに対して山本氏は「三歳までということに過敏すぎるのではないか。三歳まではむしろ余りべつたりしない。むしろその後の方がべつたりしてくる。違う文化では違う育て方があつてよいではないか」と答えた。また、母性という言葉は、「母性イコール母親だから母親は子供を育てなさい、家になさい」といふことになりやすいので、女性を意味する「母」といふことば

を使わないで母性的なものを表現してはどうか(袖井氏)という意見も出された。「子供の精神的な核となる基本的信頼関係を作る時期にそれが形成されるかどうかは人間の精神的な成長にとって重要な問題である」(桜井氏)ことはまちがいないが、ただ、それを産みの親が、そして一人の母親が担うべきであるかどうかということに関しては、すべての人類に共通の普遍的な原理はないといえそう

最終日の総括討論では、各セクション

参加者の感想から

自主セミナーへの
展開を期して

法政大学文学部哲学科3年

長妻 美恵

多種多様の文化があり、そのうちのひとつを我々は生きている。家族形態の多様性はこの文化の数に呼応する。常日頃のこと、あまりに身近なことゆえ当然こうあるべきと信じて疑わない我々における家族の形態も、またこれら無数に存在する家族形態のひとつひとつの価値観に過ぎないということ、今回このセミナーは実証的データを通して我々に提示してくれた。

家族がこうあるべきであるという当為。この当為こそが、ありのままの事実を隠蔽する担い手となる。日本の急速な近代化に従って形成された新たな家族の形態もまた、その成立に当たっては、以前の歴史的事実の隠蔽を伴う政策上の地固めを必要としたのであった。ここで問題となってくるのは、事実的な裏付けを持つと信じていた我々の家族に関する常識化した認識が、必ずしも事実

に即して演習での議論の要約が報告者からなされた後、参加者の家族体験を踏まえた家族像をめぐる議論と家族を考えていく際のアプローチの違いなどについて活発な意見交換があった。

「自分が素朴にいいと感じた家族は理屈抜きで大事にすべきだ」「無意識のうちに取り込まれている感情をそのまま受け入れてしまおうのでなく、一旦対象化し、たうで評価すべきではないか」「個人が日常的に体験する家族とアカデミックな方法に基づいて分析される家族とは切り離せないのではないか」「誰が何と言

いないということなのである。この隠蔽された事実をひとつひとつ丹念に掘り返してゆくこと、捏造された「事実」の中に織り込まれてしまっている当為の所在を見極めてゆくことの必要性を、ここから我々は痛感したのである。過去においてだけではない。現在における我々の立場性をも対象化し、内含する価値観を価値観として自覚的に認識しようとするのが重要なのである。他者も自己も対象としてひとつの基盤にせず、その価値観を相対化してこそ自己および自己とは異なるものとしての他者の存在をも認め、理解してゆくとする視座が生まれてくるのであり、これは家族に限らず人間に相対してゆく際の全ての状況においてとるべき重要な方法論であることを、今回のセミナーは我々に存分に語ってくれたのであった。

三日間のセミナーは終了したが、参加者の多くが学生であったことからすれば、我々にとっての家族への自覚的な模索は、いま、まさに始まったばかりであるといつても過言ではない。今後とも継続して議論を深めるべく自主セミナーを開催してゆこうという声もあがっている。恐らく実現するだろう。ともに考え、ともに語り、ともに学ぶ中から、家族に対する認識を深めてゆきたい。我々の認識

おうと夫婦で好きになように家族を作っていけばよい」「経済的にみて共働きをせざるを得ないことは認めるが、やはり育児は女性が行なうというのが自然なことではないか」など。三日間のいろいろな思いが交差する中で、多様な家族像が参加者から出された。家族は余りにも身近かであるためにどうしても自分の体験に固執しがちになるが、各人の体験が必ずしも普遍性を持つていたとは限らないことを忘れないようにしたい。

最後に、桜井氏は「普遍的な価値を押し付けることがおかしいように、自分の

それ自体が、更なる検証、反証の波に洗われて安当性を高めてゆけるだけの信頼と誠実性に満たした語り合いの場を、今回のセミナーを契機として作ってゆこうと、参加した者の多くが現在考えているところである。

人間から乖離しない家族
学を目指して

筑波大学医学専門学群3年

大森 敏秀

偶然手に取って見た開催紹介のパンフレット。これほどまで数多くの仲間・経験・知的刺激が得られるものかと思ひ、自分自身驚いてこの頃です。

悩みごとや心の病からくる内科疾患の治療に関わる医師を夢見ている僕は、学内の研究会や社会福祉法人の活動の中でも学んではいる。診断確定としての精神病理学、心理療法としての家族療法、疾病成因の解明法としてトランス精神医学等々。周辺領域をカバーするには広く浅くならざるを得ず、間違えば牽強附会の危険性がある。今回セミナーに参加し、専門分野の異なる仲間の様々な意見に耳を傾けてみて、その領域の中で非常に大切な点でありながら目のとどいていなかった

体験を押し付けるのもおかしい。自分の体験とは別に一つの認識として家族を考える姿勢と思ひ込みにとられることなく家族が具体的に抱えている問題を一つ一つ別出することが重要である」と総括された。このセミナーでの議論を参加者がお互いの単なる自己告白に終わらせることなく、各人の生き方、そしてそれぞれの学問営為に結びつけていってほしいことを期待したい。

なお、セミナー終了後、有志が集まって家族研究の自主セミナーを開いていくことになったとの連絡が入っている。

ものやな、かにかに触れることが出来て、大変有難く感謝しています。家族を見る目も人によってユニークな角度があり、家族観そのものが語る人の生き立ち・環境によって多彩で、従来、当然と思ひ込んで疑って考えたこともないことに、注意と学問的好奇心を向けられるようになったことは大きな変化でした。

反面家族をめぐって個々の研究内容が専門化・高度化して、方法論は研究目的に合わせられたものに固定化されていたり、同じ言葉にしても概念や用法が異なっているのがコミュニケーションが取りにくく、よくわからないまま話題を深めてしまつて混乱した時もありました。参加者の多くがテーマに対してつづる思い、考えをぶつけてくる場面がありながら積極的に発言する仲間が多すぎ、同会進行のあり方や時間の制限を受けて十分に質疑応答・討論を尽くしていない感じが残っています。

一分野を例にとっても膨大な財産を背負う学生が同床に配慮です。つき合うにも多大な努力と配慮が必要でしょう。しかし、それも乗り越えて人間から乖離しない家族学の実現を願って、一層の勉学と警鐘打ちをしつてゆきたいと考え、今後にも夢を抱いています。

昭和62年度教育プログラム白書

昭和62年度は、表1に示すとおり、前年度に準じ合計8回のプログラムを実施した。この紙面を借りて、これらのプロ

グラムの企画・運営に当たられた共同セミナー委員、国際プログラム委員、大学教員懇談会企画委員、及び各プログラ

の指導教授諸氏に対して、深く感謝の意を表したい。
表2-①②③は、大学教員懇談会を除いた学生対象のプログラム計7回の参加状況である。ゼミ単位の参加形態をとる

〈表1〉 昭和62年度教育プログラム開催状況

■大学共同セミナー

回数	期間	主 題	指 導 教 授	参加人員
No.140 (1)	昭和62年 5月22～24日 (2泊3日)	現代社会と思想の地盤変え ——象徴的なものの 社会科学——	*福井憲彦,*山本哲士, 西川直子, 大橋洋一, 丸山圭三郎	35名 (19校)
No.141 (2)	11月13～15日 (2泊3日)	言語・民族・国家 ——多言語・多民族国家の 諸問題を考える——	John LEGGE, 飯島 茂, 阿部 斉, *小浪 充, 田中恭子, 青木一能	58名 (27校)
No.142 (3)	12月4～6日 (2泊3日)	神秘主義 ——西洋思想のもうひとつの 正統——	若桑みどり, 南原 実, 志村正雄, 伊藤博明, 松本夏樹,(川端香男里)	40名 (17校)
No.143 (4)	昭和63年 3月11～13日 (2泊3日)	よくわかる家族のはなし	別役 実, 山崎 哲, 山田和夫, 平木典子, 山本真鳥,*袖井孝子, *桜井哲夫	68名 (26校)

■大学院共同セミナー

No. 8	7月3～5日 (2泊3日)	現代科学の自然観	*竹内 啓, 宮沢弘成,*江沢 洋, 長野 敬, 小尾信彌, 辻 哲夫, 吉田夏彦,(尾本恵市)	26名 (12校)
-------	------------------	----------	--	--------------

■大学合同セミナー

No.10	6月19～21日 (2泊3日)	日本の経営 ——その現在・過去・未来——	*三戸 公, 鈴木辰治, 石井修二, *麻生 幸, 高橋公夫, 大杉耕一, 友安一夫	88名 (5校)
-------	--------------------	-------------------------	--	-------------

■国際学生セミナー

No.14	11月6～8日 (2泊3日)	〈開かれた〉日本・総点検 ——君は“Japan Problem”を どう考えるか——	Karel V.WOLFEREN, 井上宗迪, Kim Kwang Doo, 唯是康彦, 草野 厚, 小池和男, 山野上素充, 阪中友 久, John.WELFIELD,(渡辺昭夫) (山沢逸平),(中村英夫),(溝田 勉) (竹田いさみ),(長谷川三千子)	71名 (24校)
-------	-------------------	--	--	--------------

■大学教員懇談会

No.24	10月3～4日 (1泊2日)	大学の魅力開発	潮木守一, 絹川正吉, 高橋靖直, *示村祝二郎,(平木典子), (神保信一),(原科幸彦)	49名 (28校)
-------	-------------------	---------	--	--------------

*印は運営委員を兼ねた指導教授。()内は運営委員。

〈表2〉 昭和62年度教育プログラム参加状況

(計7回:第140～143回大学共同セミナー、第8回大学院共同セミナー、
第10回大学合同セミナー、第14回国際学生セミナー)

【①大学別参加者数】

大学区分	男	女	合計	大学区分	男	女	合計	大学区分	男	女	合計
東 京 大 学	5	9	14	東 京 大 学	1	3	4	法 政 大 学	2	2	4
筑 波 大 学	16	1	17	京 都 大 学	3	3	6	武 蔵 大 学	1	1	2
埼 玉 大 学	1	1	2	千 葉 大 学	32(32)	10	42	政 治 大 学	3	3	6
千 葉 大 学	4	2	6	山 梨 大 学	2	8	10	明 治 大 学	3	4	7
東 京 大 学	18	5	23	青 島 大 学	1	1	2	立 教 大 学	17(13)	5(2)	22(15)
外 国 語 学 院	3	15	18	学 院 大 学	6	1	7	和 光 大 学	1	1	2
東 京 大 学	3	3	6	慶 応 大 学	2	4	6	早 稲 田 大 学	23	8	31
東 京 大 学	2	2	4	国 際 基 礎 大 学	16(16)	1	17	神 奈 川 大 学	4	4	8
お 茶 水 大 学	4	4	8	駒 上 大 学	1	2	3	関 東 大 学	17(17)	2	19
橋 本 大 学	6	2	8	成 成 大 学	1	1	2	中 部 大 学	1	1	2
横 濱 国 立 大 学	1	5	6	路 加 香 聖 創 大 学	1	1	2	広 島 大 学	1	1	2
新 潟 大 学	6(6)	1	7	大 津 大 学	1	1	2	私 立 小 計(33校)	157(78)	70(2)	227(80)
信 州 大 学	1	1	2	東 京 大 学	11	1	12	放 送 大 学	4	4	8
静 岡 大 学	1	1	2	東 京 大 学	11	1	12	そ の 他 小 計(1校)	4	4	8
京 都 大 学	1	1	2	東 京 大 学	2	7	9	共 立 女 子 大 学	1	1	2
立 教 大 学	5	1	6	東 京 大 学	1	4	5	東 京 都 立 医 療 技 術 大 学	1	1	2
京 都 大 学	1	1	2	東 京 大 学	4	1	5	短 期 小 計(2校)	2	2	4
横 濱 大 学	1	1	2	東 京 大 学	1	1	2	そ の 他*	18(2)	15	33(2)
留 文 大 学	1	1	2	日 本 女 子 大 学	1	6	7	総 合 計(54校)	247(86)	139(2)	386(88)
公 立 小 計(3校)	5	3	8								

() は内数で大学合同セミナー参加者数。総数386名のうち留学生は17名。*「その他」のうち8名が研究生、残りは社会人。

昭和62年度業務白書

●年間宿泊利用者五万四、八四四人

昭和62年度の宿泊利用者は表1に示すとおり、延べ五万四、八四四人(月平均四、五七〇人)、グループ数は一、〇五一(同八八)であった。対前年度比六八六人増で、54年度以来、九年連続五万人増を維持した。

開館以来(二二年九ヵ月間)の宿泊利用者は延べ一〇〇万七、二九人、グループ数は二万二、六七一に達した。なお、本年度中、昭

〈表1〉利用者別宿泊人数・ゼミ回数

()内は前年度数

	ゼミ回数	比率(%)	宿泊延人数(人)	比率(%)	1団体平均人数
会 員 校	564 (593)	53.7	28,269 (28,980)	51.5	34 (32)
非 会 員 校	132 (138)	12.5	6,288 (6,026)	11.5	31 (26)
大 学 連 合	50 (48)	4.8	5,340 (5,585)	9.7	46 (48)
学 術・教 育 団 体	85 (112)	8.1	5,259 (5,408)	9.6	37 (30)
社 会 人 団 体	220 (216)	20.9	9,688 (8,159)	17.7	24 (23)
合 計	1,051 (1,107)	100	54,844 (54,158)	100	33 (30)

〈表2〉会員校利用状況

順位	校 名	ゼミ回数	順位	校 名	宿泊延人数
1	中央大学	50	1	中央大学	1,775
2	東京都立大学	43	2	早稲田大学	1,680
2	早稲田大学	43	3	東京都立大学	1,160
4	東京大学	32	4	東京薬科大学	1,085
5	慶応義塾大学	25	5	慶応義塾大学	1,059
5	青山学院大学	25	6	津田塾大学	934
7	駒沢大学	23	7	駒沢大学	926
8	東京理科大学	21	8	東京電機大学	913
9	東京学芸大学	20	9	東京学芸大学	841
10	明治大学	19	10	東京理科大学	776

(注) 中央大学の通信教育スクーリング学生の宿泊数は含まない。

【②専攻別参加者数】

	男	女	計	合計	比率(%)
文学	12	24	36	107 (63)	27.7
史学	6	9	15		
哲学	2	3	5		
教育学	11	9	20		
心理学	1	3	4		
芸術学	5	5	5		
その他の人文科学	7	15	22	211 (50)	54.7
法律	24	3	27		
政治学	112	7	119		
社会学	11	9	20		
国際関係学	9	21	30		
その他の社会科学	5	10	15		
理工学	12	1	13	30 (6)	7.8
工学	3	2	5		
農学	2	2	2		
医学・歯学・薬学	1	3	4		
その他の自然科学	6	6	6	5(5)	1.3
家政学		5	5		
その他	18	15	33	33(15)	8.5
合 計	247	139	386		100.0

()内は内数で女子。

【③学年別参加者数】

学 年	男	女	計	比率(%)
1 年 生	18	11	29	7.5
2 年 生	30	14	44	11.4
3 年 生	75	46	121	31.4
4 年 生	75	32	107	27.7
大 学 院 生	31	21	52	13.5
そ の 他	18	15	33	8.5
合 計	247	139	386	100.0

(7頁より)

大学合同セミナーの参加者は、表中、内数で()内に示した。

まず、参加者総数は三八六名で、前年度より二二名増加し、二年連続で減少してきた傾向に、ひとまずストップがかかったことは喜ばしい。従って大学数も

前年度の四四校から五四校へと拡大した。中でも国立大学が四校増加しているのが目をひくところである。

表2①②で人文・社会・自然の三領域の分布を示したが、圧倒的に高い社会科学の比率は、第10回大学合同セミナーによるものである。

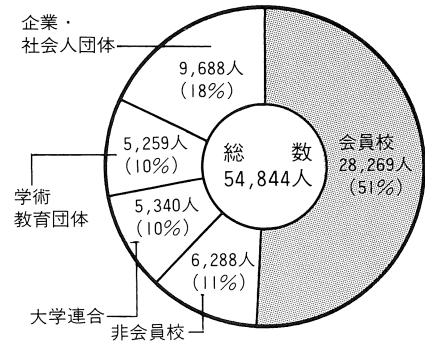
和63年2月18日に、開館以来の宿泊利用者が延べ一〇〇万人を超えた。40年7月5日より数えて二二年七ヵ月一四日の歳月をへて達成された記録で、その間ハウスで実施された国内外の合宿セミナーは二万二、五五四であった。

●グループ別の利用状況

利用者を宿泊延人数で大別すると図1

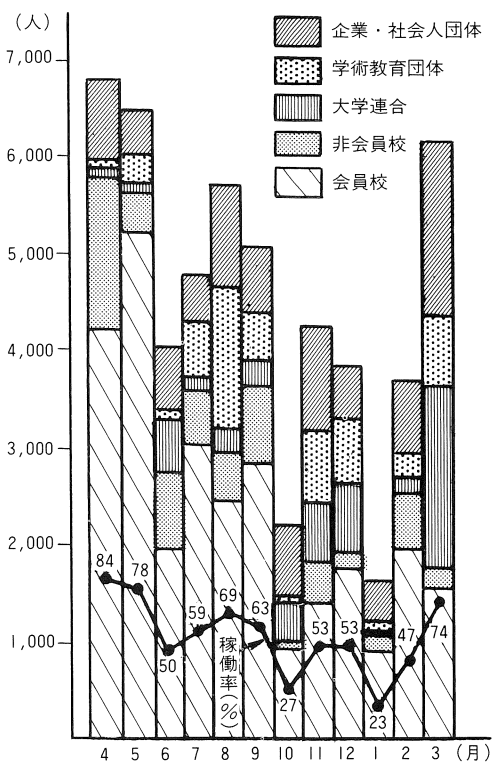
のようになる。「会員校」(協力会員校は準会員校を含め六四校)は全体の五二%であるが、「大学連合」(一〇%)にもハウス主催の教育プログラムを含め会員校を中心とする連合集会所が含まれているので、「会員校」の実質的な利用率はこの数値よりさらに高い。表2では、参考までに、本年度比較の利用の多かった協力会員校一〇校を示した。

〈図1〉利用グループ別宿泊延人数



●年間の稼働率五六・九%
年間（稼働日数三五七日）の平均稼働率は五六・九%で、前年度（五六・五%）をやや上回った。この結果、59年度以降の稼働率が三年連続の漸増となった。ハウスの利用状況は図2に示すとおり、概して年度の後半が低く、特に学年末試験をひかえた1月は、本年度も二三%と最も低かった。利用の少ない月、週末を除いた平日の利用の促進をはかり、全体としての稼働率を高めることを、今後とも課題としていきたい。

〈図2〉月別・利用グループ別宿泊延人数と稼働率



表紙に寄せて

夏の森のヒーローたち

夏の大学セミナー・ハウスに

集う虫仲間

東京学芸大学教授 藍 尚禮

大学セミナー・ハウスは、周囲の自然をどんどん削り取られている。毎年の学生との生活で一番気になる事柄である。しかし、まだまだ美しく深い緑は、虫たちに楽園を提供しているようだ。「夏」、樹液のである木々は、虫たちにとり甘い食物を与えてくれる。そこは、また恋を語る場所でもある。恋と言っても、虫たちには、実は、甘いものではない。生きてゆくための戦いである。互に死に至る争いに明けられることもある。夏の森の中

での、ひそやかな営みも、じっと目をこらしてみると、飽食に明け、平和にうつつをぬかしている我れと我が身に、きつ／＼とひきしまる瞬間を見せてくれる。虫が好きで好きでたまらぬ若者、研究室の学生、林積久君に、セミナー・ハウスの雑木林でみかける虫の中から、9種を選んで描いてもらうことにした。多摩で生まれ育った若者は、私に虫の仲間を語ってくれた。

ルリタテハ *Kaniska canace no-japonicum* von Siebold

黒地にルリ色（紫がかつた青色）の帯が一本人の翅に特徴があり、日当りの良い場所で美しさを誇る蝶である。路上、樹上と翅を開いてとまる。

近づくくと、飛び立たれてしまう。が、また同じ場所に戻ってきてくれる。

オオムラサキ *Saskia charonda* Hewitson
国の蝶として知られ、武蔵野を代表する大

型の蝶。オスは翅の表面が紫色に光り、裏面は淡い黄色である。しかし地域によりこの黄色は白色化する。

サトキマダラヒカゲ *Neope goschevici-cini* Menetries

好んで樹液に集まる蝶。後翅裏面に体軸に沿って三つの斑紋が平行に並ぶ。春型・夏型と二型があり後者がやや大きい。

ノコギリクワガタ *Protopopoclus inclinator* Motschulsky

木を蹴ると落ちてくることから、肢の力はカブトムシに比べて弱そうである。大喰いの個体が大型で、食分量によってからだの大きさが異なると共に、ノコギリ状のあご（大あご）の形も違っている。

カブトムシ *Alomyrina dichotoma* Linne

子供が最も好むムシで、力の強い、大きいそり反った角をもつ雄に比べ、雌は角をもたず、夜行性である。成虫は樹液に集まるが、幼虫は朽ち木にもぐり込み腐食質を食べる。

カナブン *Rhomborhina japonica* Hope
日中、樹液に集まる仲間、銅色から、暗

緑色まで個体により体色が異なる。肢の付き方や、前肢の脛節に大きい変型のあることがこの種の特徴といわれている。

ドウガネブイブイ *Anomala cuprea* Hope

銅で出来た鎧をつけているような、金属的な甲虫の仲間。美しい、しかし地味な色合いである。ブドウのほか、植物の葉を食べあらず成虫に対し、幼虫はシバや苗木の根を食べあらず。

アブラゼミ *Graptopsaltria nigrofuscata*

フライパンで油をたくとき、アブラゼミの鳴きに似た音がでるの（この）呼ぶのだから。私には、こいつが鳴くとアブラ汗が出てくる。半月に足らぬ地上での生活、7年間の土中での幼虫期を想うと夏の日をたたえる歌と聞いてやる。

キイロスズメバチ *Vespa xanthoptera* Cameron

紙上を騒がす攻撃性の強いスズメバチの仲間的一种。人の気配で大あごをカチツカチツと鳴らして警報を出すというしゃれた仲間だが、刺されたら大変というおそろしいハチでもある。黒い体に黄色の斑紋が広域を占める。

第67回理事会・第47回評議員会

88年4月5日/東京ガーデンパレス

〔出席者〕

(理事) 中川秀恭、飯田宗一郎、三宅彰、崎田直次、村山松雄、小山五郎(代理・瓦林謙司)、柏木茂

〔評議員〕

川原栄峰、岡宏子、井出源四郎、安田元久、桜井徳太郎、那須宗一、箕輪圓、渡辺保男(代理・加美山節)、柳井久義(代理・石田博)、児玉三夫(代理・小川哲生)、委任状による者(理事一三名、評議員六三名)(敬称略・順不同) 理事会・評議員会は、中川理事長が議長となり、議事に入る。柏木専務理事より議案説明が逐次行なわれ、若干の質疑応答ののち各案件を承認可決した。

うな意見交換が行なわれた。本施設は単なる宿泊施設ではなく、教育・研修のためのハイ・クオリティのレベルを維持しなければならぬ。そのためには、経営面の健全な育成と併せて、利用者の質を高め、サービスの充実をはかるよう十分配慮して、事業計画を進めて行くべきである。

▽開館20周年記念募金について 募金実績は一億四、三三三万円(目標額二億七、五〇〇万円の五二・二%)となり、募金活動は3月31日で終了した。また日本船舶振興会から四、二〇〇万円の補助金が交付されることが決定した。

▽昭和62年度の利用状況についての報告 最近四年間に利用者数が漸増の傾向にあり、63年2月には開館以来の宿泊利用者が延べ一〇〇万人に到達するという記録をつくった。

第68回理事会・第48回評議員会

88年5月31日/東京ガーデンパレス

〔出席者〕

(理事) 中川秀恭、飯田宗一郎、小山五郎(代理・瓦林謙司)、鈴木皇、村山松雄、柏木茂

(評議員) 川原栄峰、小谷正雄、岡宏子、関四郎、加納六郎、喜多勲、柳井久義(代理・石田博)、宮崎利夫、児玉三夫(代理・小川哲生)。

なお、施設の利用に関連して、次のよ

昭和63年度一般会計収支予算書 (63.4.1~64.3.31)

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
基本財産運用収入	159,000	人件費	118,982,000
財源収入	56,700,000	施設管理費	25,390,000
事業収入	163,080,000	その他管理費	20,850,000
宿泊収入	124,560,000	一般事業費	16,830,000
施設収入	27,720,000	普通セミナー事業費	32,895,000
納付金収入	10,800,000	学生指導セミナー事業費	10,613,000
施設改修協力金収入	9,700,000	国際セミナー事業費	3,604,000
セミナー会費収入	2,960,000	固定資産取得支出	25,000,000
補助金等収入	8,980,000	繰入金支出	109,173,000
寄付金収入	500,000	その他の支出	2,239,000
雑収入	7,324,000	子備費	1,800,000
特定預金取崩収入	111,000,000		
繰入金	6,973,000		
当期収入合計	367,376,000	当期支出合計	367,376,000
前期繰越収支差額	20,685,000	次期繰越収支差額	20,685,000
合計	388,061,000	支出合計	388,061,000

委任状による者(理事一四名、評議員七六名) (敬称略・順不同)

理事会・評議員会では中川理事長が議長となり、議事に入る。柏木専務理事より逐次議案説明があり、若干の質疑応答ののち各案件を承認可決した。

▽評議員人事に関する件

学長交代による荒川幾男東京経済大学長、小原広忠武蔵大学長、竹内一夫杏林大学長、太田時男横浜国立大学長、松田藤四郎東京農業大学長、京極純一東京女子大学長、石井昌三順天堂大学長、角田

授、井早康正電気通信大学教授の三氏の新任。

▽役員人事に関する件

木村礎、齋藤英四郎の二氏の理事新任。山本進一氏の理事退任。川添利幸中央大学長の監事新任、隅谷三喜男氏の監事退任。以上のほか任期満了に伴う理事二〇名、監事一名の再任。

理事長、館長、専務理事、常務理事七名の再任。

▽昭和62年度事業報告及び決算報告に関する件

決算では新館建設資金として特定預金

昭和62年度一般会計収支計算書 (62.4.1~63.3.31)

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
基本財産運用収入	168,130	人件費	129,005,674
校会事業収入	56,700,000	施設管理費	28,989,627
宿泊収入	168,348,784	その他管理費	20,167,801
施設納付金収入	127,697,320	一般事業費	15,615,323
施設改修協力金収入	29,184,780	普通セミナー事業費	26,500,697
セミナー会費収入	11,466,684	学生指導セミナー事業費	9,151,423
補助金等収入	9,849,450	国際セミナー事業費	3,297,222
寄付金収入	3,177,820	固定資産取得支出	9,164,900
特定預金取崩収入	9,801,000	特定預金支出	77,500,000
雑収入	836,660	繰上金の支出	9,800,442
	9,072,485	その他	95,760
	5,808,000		
	7,184,645		
当期収入合計	270,946,974	当期支出合計	329,288,869
前期繰越収支差額	76,844,211	当期収支差額	△58,341,895
		次期繰越収支差額	18,502,316
収入合計	347,791,185	支出合計	347,791,185

国際館建設のための
開館20周年記念募金第八回報告

申込総額 一四四、〇八八、〇〇〇円
(88年5月末日現在)

内訳
財界関係七六件一三三、六二〇、〇〇〇円
大学 三五件 四、四六〇、〇〇〇円
一般 三一件 一、一六〇、〇〇〇円
個人 二六一件 四、八四八、〇〇〇円

●寄付申込者(芳名)

(申込順)

◎一般 五〇、〇〇〇円

◎個人

財団法人フランス語教育振興協会 一〇〇、〇〇〇円 株式会社朝倉書店殿 一〇〇、〇〇〇円
株式会社せりか書房殿 七、〇〇〇円
福井カルチャーセンター常務理事 藤井賢二殿 一〇、〇〇〇円
東京外国語大学 中嶋嶺雄殿 一〇、〇〇〇円
東京外国語大学中嶋ゼミ殿 一〇、〇〇〇円
東京外国語大学教授 北村甫殿 一〇、〇〇〇円

へ資金の繰入れ処置を行なった。また事業収入は前年度対比約2%の増収となり、次期繰越収支差額は一、八五〇万円となった。詳細は別掲の収支計算書に示すとおりである。
なお監事から、62年度の会計・業務とも適法適正に処理されているとの監査報告があった。
▽国際館の名称変更について
開館20周年記念事業である「国際館(インターナショナルロッジ)」の名称を、「開館20周年記念館(略称「記念館」と変更する。

Ⅱ出版物案内Ⅱ

書名 『神秘主義——ヨーロッパ精神の底流——』

せりか書房刊

第142回大学共同セミナー(87年12月開催)の講義をもとにして

■内容■

神秘主義序論……………川端香男里
ルネサンス美術にみる神秘主義……………若桑みどり
……………若桑みどり
神殿の建設——ある神秘主義的イメー
ジとその変遷……………松本夏樹
イタリア・ルネサンスにおける
神秘主義……………伊藤博明
神秘主義とアメリカ文学……………志村正雄

編者 川端香男里
著者 若桑みどり・松本夏樹・伊藤博明・志村正雄
発行日 88年5月26日
定価 二、〇〇〇円

(本館フロントにて一、八〇〇円で
お頒けしています。)

●書評から

八王子市の大学セミナー・ハウスはすでにいろいろと豊穡(ほうじょう)な成果をうんでいる集いだが、この本もその

最新成果で、「神秘主義」というテーマをかかげてのセミナーの講演と演習をそのままにしたもの。若桑、志村正雄両氏のものなど、語り手の口調や呼吸がよく伝わってきて、その意味でも楽しい講演録の体裁で、読みやすい。

このところとくに若い研究者が確実にふえつつある神秘主義思想の、とくに西欧における流れを、手だれの、あるいは清新な論者がそれぞれの専門に拠って論じていく、美術史の若桑氏は、デュラールの「メレンコリア」という図像学研究の「焦点である絵とミケランジェロの一連の作品の中に、ルネサンス神秘主義哲学との交渉をさぐる。思想史の伊藤博明氏は同じイタリア・ルネサンスの神秘主義的基盤を「愛の理論」から追ったもの。そしてアメリカ文学者の志村氏は、六〇年代の対抗文化の中で花開いた神秘主義と、その原型となった十九世紀の超越主義をそつなく説きさつている。編者による序もそつがない。

イタリア十五世紀とアメリカ二十世紀だけではないかにも力不足というところを一手に引き受けて、この本を支えてみせたのはなんと、松本夏樹氏の「神殿の建設。来日してその奇矯なパフォーマンスが話題になったヨーゼフ・ボイスのアクションが実は厳密にフリーメイソンの儀礼的行為ではないかとする。私見と分析がいかにもしっかりしている。このポイントを狂言まわしにして、十字軍時代の聖堂騎士団から近世の薔薇十字思想、フリーメイソンにいたる神秘主義的結社の歴史を手きわよく説きさる。そうした隠れた思想水脈を宇宙的「神殿」建設への意志の歴史ということで強烈に説き伏せていくところが魅力。薔薇十字思想、メスマリズム(催眠術)など若い人の神秘思想狂いの焦点となっている界限(かいわい)だけに面白く読める。

都立大助教授 高山 宏
(88年7月4日 東京新聞より転載)

千人会

'88年3月
'88年5月

◆現在会員一、五〇九名(実会員数)

(通算入会者一、八〇二名)

◆新しく会員となられた方々

- 作家
 C 代々木ゼミナール職員
 C 八幡法律特許事務所所長
 B ソロモン経営研究所
 C 彫刻家
 C 惠泉女学園大学教授

◆会費ありがとうございます

- 平野鉄太郎、高松正昭、須田精二郎、関口晃、
 豊田陽子、増沢利幸、安原義仁、宮腰賢、朝
 倉弘之、安藤英治、佐藤毅、松崎義徳、山田
 耕司、勝見允行、藤木宏幸、内藤博、井村君
 江、一松信、福島重美、馬越徹、西村閑也、
 西川恭治、岩崎代志治、永野賢、五唐勝、谷
 口汎邦、那須宗一、新谷麗造、岡山猛、寺中
 良二、梅村魁、木村建一、人見宏、大西清、
 土井恵美子、鈴木一郎、山田良之助、中岡二
 郎、示村悦二郎、大泉充郎、白川和雄、拓植
 敏治、松尾弘、齊藤幸一郎、手島修蔵、荒川
 孝子、河村フジ子、岡村総吾、高階秀爾、富

会員の現況

(昭和63年3月31日現在)

- 入会者数(通算) 1,798人
 (物故者・退会者 288人)
実会員数 1,510人
 終身会員(一時払い10万円) 17人
 A 会員(年額 10,000円) 190人
 B 会員(年額 5,000円) 458人
 C 会員(年額 3,000円) 845人

塚文太郎、高橋和之、萩原稔、麻島昭一、清水護、村山全、柴田泰比古、森山ヨシ子、田治夫、小田五郎、田所光子、市川邦彦、大塩俊介、富岡幸雄、池田義人、大田末穂、林潔、手塚喬介、尾田綾子、福西基、吉沢四郎、池原義樹、高瀬文島田、熊坂敦子、進藤トク、玉田啓八、木田外志夫、望月清司、鈴木一郎、中島直忠、向坊隆一、加藤六美、佐藤公孝、石川信男、桜井育子、寿里茂、井出翁、村井美、横田忠夫、牧野定雄、永井道雄、八幡義博、久保田浩、木村尚三郎、春田素夫、村田晴夫、久保田浩、木村尚三郎、春田素夫、鴨澤敏、佐藤慶幸、瀬部孝、松澤通生、小川仁、丸山眞男、中野工、小倉芳彦、室本誠二、館逸雄、藤井彌太郎、井上百合子、本田和子、福田一郎、村山松雄、石渡毅、野間三郎、宇川和子、小林弘政、有賀弘、護雅夫、鈴木友二、大河内正陽、関口富左、堤彪、石弘光、染谷恭次郎、高峯一愚、江淵浩美、林邦夫、安藤賢一、小林弘、矢野洋四郎、関根隆光、桐生富久、佐藤和男、佐伯彰一、塩田庄兵衛、中田良平、橋弘次、竹内昭夫、海老根宏、小泉一郎、金子六郎、井上宇夫、太田正孝、細谷千博、羽田三郎、林肇、阿部弘、寺内礼治郎、伊倉退蔵、大川郁子、横山勝信、水野弘文、下森定、本吉修一、小原清成、佐藤紀明、下出積興、高橋康之、高木健太郎、狩野紀昭、大原栄一、向山文雄、近藤裕、岡田英和、大塚久雄、樋口美智恵、伊藤意智郎、鈴木梯二、富山芳正、井上繁、後藤捨男、渡利千波、羽田新、中村英雄、梅沢文輔、内田祥哉、大村晴雄、加藤秀俊、正田亘、芳賀徹、森田桐郎、加藤晴久、内田保五郎、関口忠、関分久、今井栄、小林保彦、阪本泉、角田隼、天城勲、宗像元介、矢澤大二、野見山不二、澤島佑子、山之内靖、原治、石川孝夫、平野文彦、峰岸純夫、坂本昭治、広内哲夫、牧内勝、木村正吉、岡田己代次、今井義夫、伊藤喜栄、絹川健二郎、加藤一郎、荒井基、栗田見瑞、本明寛、村田勝彦、荒井献、奥山典生、福島明、鈴木二郎、村瀬英、水谷真智子、高橋忠次郎、西澤宗英、村上達雄、千野熊男、柴垣和三雄、佐野幹夫、村上泰治、竹村光子、西川大二郎、長岩寛、荒川有史、深海博明、田中未来、三浦徳弘、徳水勇雄 (敬称略)

千人会収支計算書

(昭和62年4月1日～昭和63年3月31日) (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越収入	2,788,885	印刷製本費	36,600
会費	4,063,700	通信運搬費	549,940
雑収入	8,643	貯蓄手数料	42,910
		計	600
		次期繰越収入	630,050
		支差額	6,231,178
合計	6,861,228	合計	6,861,228

◆千人会員からのたより

今年も元気で誕生日を迎えました。学生時代色々と内面的成長の場として、セミナー・ハウスにお世話になりました。今、私は次の世代の若い人達に、自分の出来るささやかなことを分かち合える健康と機会を喜んでいきます。 神奈川大学教授 堀野定雄

飯田八千代様が亡くなられて、セミナー・ハウス創立時の縁の下を、しみじみとおおこしております。言葉少なく黙々とハウスを支えて下さいました。 日本女子大附属高校相談室 桜井育子

社会全体の国際化に伴って、貴ハウスも国際化しつつあると存じます。人種の規模で教育に貢献されますように、御発展を祈ります。 大学入試センター教授 中島直忠

今年も還暦を迎え、心を新たにライフ・ワークの完成のために努力いたしたいと思います。念じております。 東洋大学教授 白川和雄

八十六回目の誕生日を迎えました。セミナー・ハウスとは創設以来の御縁ですが、なかなかお伺い致すことが出来ず残念です。 東京都立大学名誉教授 五唐勝

教職を離れたもので、学生と接触する機会もほとんどなくなりました。 東京都立大学名誉教授 塩田庄兵衛

いつもお世話様になっております。月一回のセミナー・ハウス通いを学生ともども楽しみにしております。 東京理科大学教授 狩野紀昭

今年、古稀です。ハウスの発展を祈ります。殊に留学生に門を開くことに関心をもちます。 職業訓練大学校名誉教授 宗像元介

八十八歳の年をかさねましたが、おかげさまで元気、多忙。 日本女子大学名誉教授 野見山不二

寄付金

'88年3月
'88年5月

〈一般寄付金〉

- 一五、〇〇〇円 茶道教師田所光子殿
- 一〇、〇〇〇円 株式会社プレスサービス 子利男殿
- 三〇、〇〇〇円 東京薬科大学新歓祭実行委員会殿
- 一〇、〇〇〇円 東京純心女子短期大学殿
- 五、〇〇〇円 東京YWCA専門学校英語科殿

〈植樹資金〉

市光工業PIAA合同合宿

〈教育プログラム資金〉
 一八、三四五円 第143回大学共同セミナー

業／務／通／信

88年3・4・5月
花と新緑の丘の合宿から

春の雪、満開のしだれ桜、そして新緑から青葉へと移り変わるこの季節。3月は春休みで活況を呈し（宿泊者六、〇〇〇人台、稼働率74%は同月の最多記録）、4・5両月は各大学の新入生オリエンテーションの大型合宿が相次いで繰り広げられ、フレッシュマンの活気に溢れた。

●新入生合宿で七、七〇〇人

4・5両月中に実施された新入生合宿研修でクラス単位以上の規模のものは、別表（14頁）に示すとおりで、計五二件（三〇校）。宿泊参加者数は延べ七、七〇二人（うち教職員六一二人）におよび、両月の総宿泊者数の64%を占めた。上級



6月の発表会を目前に練習に励む日大芸術学部朗読研究会——新緑のゴールデンウィークの合宿風景から——



しだれ桜に春の雪!! 郵便ポストもびっくり。(4月8日)

生は約半数の二七件の合宿に延べ八七四人が参加している。

今季初めて当ハウスで実施されたのは、東京学芸大学の国際文化教育課程と自然環境科学専攻（ともに今年度新設）、立教大学ドイツ文学科、東海大学西洋史科の四グループ。東京学芸大学は二〇年来継続実施の他の五教室と併せて、今年も最多の計七件を実施された。

●恒例の新入生セミナーから

本格的な新入生オリエンテーションがハウスで実施されるようになったのは67年（開館二年後）。それ以来、毎年継続的に実施され、すでに二〇年を超える

私の国際交流

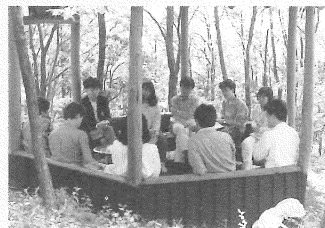
留学生オリエンテーション合宿に参加して

慶応義塾大学法学部3年

下村有子

四月三十日。大学セミナー・ハウス、三度目の訪問。

私は、慶応義塾大学のKOSMIC（国際センター塾生機構）というサークルに入っている。このサークルは、留学生と共に大学生活を楽しむんだり、考えたりする。その貴重な一歩が、ここセミナー・ハウスで行なわれるオリエンテーションキャンプなのだ。毎年、ここで留学生と友達になるきっかけをつかむ。もちろん、それを深められるかどうかは、その後にかかっている。が、共に食事を取り、ゲームをし、お風呂に入り、語り合ったという経験は、大学に戻ってからのもちよっとした話題にすぐ結びつくのである。



五月一日。大学セミナー・ハウスを去る。来年また来られることを願って……

大学も数校ある。この春は日本女子大学の社会福祉学科（本紙No.74に紹介記事）が「二〇回目」を記録した。同学科に続き、家政経済学科もハウスでのオリエンテーションを定例化されて久しい。本号の「わたしたちの合宿」（14頁）では、広田寿子教授に同学科の合宿セミナーの一端をご紹介いただいた。広田教授は72年の大学共同セミナー「家を考える」で、吉阪隆正・早大教授らと指導に当たられた。そして、毎年欠かさず参加して来られたこの新入生セミナー、同教授にとって「今年が最後（来春定年を迎えられる）」とうかがった。特別な思いをこめて綴って下さった一文である。

●外国人留学生のオリエンテーション

中央大学の国際交流センターと慶応大学の国際センターが、4月中に外国人留

学生のオリエンテーションを実施された。ともに日本人学生ないし教職員との生活交流の中で大学生活への導入を助けるようとするもので、前者には八カ国、後者には六カ国の留学生が参加した。慶応大学の場合は、「各学部の学習指導に当たる諸先生方、二年生以上の先輩留学生、さらに留学生の学園生活を支援するためのグループとして従来から存在する通称KOSMICの日本人学生」も参加して行われている。総勢一〇二名の合宿である。日本人学生の一人・下村有子さんは法学部政治学科3年。は一年生当時から計三回この合宿に参加してこられた。小学6年から二年間英国で生活した折の異文化体験を生かすことができれば、というのがその参加動機である。後日、別掲の感想文を寄せていただいた。

小学六年から中学一年にかけての父の転勤によるイギリス生活がきっかけで、私のような者でも留学生の役に立ってたらと入ったサークル。大学三年になった今振り返ってみれば、留学生に教えられることがかりであるが、そうしたこと始まりが、一年、二年の時のこのキャンプであった。今年のキャンプもまたそうした結果を参加者全員にもたらし続けてくれるであろうと期待している。

新入生オリエンテーション

合宿で

日本女子大学
家政経済学科教授 広田寿子

入学式から十日ほど経った四月の十六日と十七日の両日にかけて行われた、家政経済学科恒例の新入生オリエンテーション・合宿には、新入生八一名(一名欠席)と研究室スタッフ全員が参加した。

セミナー・ハウスの広大な丘は、芽吹きはじめた木々や草の、淡い緑が一面にひろがり、満開のしだれ桜があちこちで薄紅色の見事な姿をそえていた。群れ咲くすみれやたんぽぽ、罌粟をききそう野鳥、忘れていた自然の香しさが、快晴の丘いっっぱいに立ちこめていた二日間であった。

この合宿の共通テーマは「生活を考える学科で学ぶために」と、とくに分科会で話し合いは、「家政経済学科のしおり」を読ん



新入生たちに囲まれて——前から二列目中央が広田先生

れた学科の来歴、学科での勉強の仕方、年輪を重ねつつある卒業生の実態、卒業論文のテーマ、推薦図書、年々の就職状況などがおさめられている。

二日目の午前中は、前夜の分科会を受けて、学生の司会による全体会があり、七つのグループ毎に趣向をこらした報告について、一〇名の教員がおもいおもいに学生たちの発表をげます感想を述べた。静粛で、さわやかで、若々しさがみなぎる会場の雰囲気は、これからはじまる四年間の学生生活にたいする研究室一同の期待を大きくふくらませてくれた。

ところで、私は来年定年をむかえるので、合宿参加は今回でおわる。そんなこともあって、一日目の全体会では、「家政経済学科で学んでほしいこと」と題して、結局二時間ちかく話をする機会がもてた。

昭和十三年の四月、その頃まだ専門学校であった日本女子大学の国文科に入学した私と、この合宿に参加した学生たちとの間には、年齢的にいってほとんど半世紀のひらきがある。そこで私は、私の半世紀の体験をおしえて、「現代」のもつ重みをぜひ学生につたえ

ておきたいと思い、つぎのようにとてつもなく大きな話をしてみました。一、現代とは何か、二、歴史から学ぶこと、三、身近かな生活の現実を掘り下げる意義、四、世界のなかの日本の立場、五、どう生かすか、可能性にみちみちているあなたの現在。

あとで学生の感想を読んで、まとまりのない話ながら、話したことは無駄ではなかったと安堵した。一人の学生は、この合宿をしめくくってこう書いている。

「アルファベットから始める英語と違って、何から始めればいいのかはつきりしない経済という学問に不安を抱えていましたが、根底にあるものは自分自身であり生活であるということです。それらを含めた現代を歴史的にも科学的にも追求することが第一歩であると思いました。そしてトータルな考えが有機化され結晶となったとき、家政経済を学んだということになったのでしょう。こんなにヤル気をおこしてくれた八王子セミナーは、一生心に残るものであり、真の学問を目指して邁進する決意をした一日でした。」(須田和子)

昭和63年4・5月
新入生オリエンテーション実施状況 (人)

学 校 名	参加者数
●4月	
中央大・国際交流センター(留学生)	49(6)<15>
東京薬科大(新入生歓迎キャンプ)	*250 <104>
共栄学園短大・生活学科	278(30)
立教大・観光学科	157(7)
杏林大・保健学部	*126(7)
駒沢大・仏教学部	211(24)
東京都立大・法学部	40(2)<11>
日本女子大・家政経済学科	91(10)
学習院大・学生相談所	53(5)<18>
東京農工大・工業化学科	130(11)<73>
東京電機大・経営工学科	122(5)
東京都立医療技術短大	235(48)
東京コンピュータ専門学校	271(20)
東京コンピュータ専門学校	245(20)
東京都立大・機械工学科	74(6)
東京職業訓練短期大学校・生産機械科、金属成形科	110(13)<50>
東京都立商科短大・経営学科II部	130(14)<33>
日本女子大・社会福祉学科	119(9)<7>
十文字学園女子短大・家政専攻	239(6)<119>
東京純心女子短大・音楽科、美術科	138(20)
東京YWCA専門学校・英語科	54(5)
東京学芸大・国際文化教育課程	114(21)
●5月	
慶応義塾大・国際センター(留学生)	102(15)<27>
武蔵工業大・電子通信工学科	147(13)<22>
立教大・ドイツ文学科	59(13)
高津看護専門学校	75(4)<36>
東京都立大・数学科	89(12)<53>
東京電機大・電子工学科	148(4)<4>
埼玉大・機械工学科	93(4)
東京都立立川短大・家政学科、食物学科	129(27)
津田塾大・国際関係学科	311(26)<5>
津田塾大・英文学科	259(15)<14>
東京学芸大・生物学教室	32(4)<3>
東京学芸大・自然環境科学専攻	43(4)
東京学芸大・物理学教室	29(3)<3>
東京学芸大・理科教育教室	16(2)<2>
東京都立商科短大・商学科II部	121(15)<28>
東京都立商科短大・商学科	274(24)<34>
文京女子短大・英語英文学科	301(9)
文京女子短大・英語英文学科	298(9)
東海大・西洋史学科	34(5)
東京薬科大・薬学部C・Dクラス	148(2)<6>
東京都立科学技術大・機械システム工学科	56(10)
津田塾大・数学科	124(12)<7>
東京学芸大・数学教育学科	127(7)<9>
東京学芸大・教育情報専攻	39(3)
東京薬科大・薬学部Gクラス	84(2)<6>
東京電機大・電子通信工学科	157(8)
文教大女子短大・英語英文科	*260(18)
東京都立大・物理学科	67(6)<22>
東京都立大・化学科	98(8)<59>
明治学院大・社会学科II部	110(14)
計 52グループ(30校)	7,066(587)<770>

(注) 参加者数の()内は教職員、< >内は上級生でともに内数。*は2泊、他は1泊。実施順。
なお、参加者の延人数は7,702(612)<874>である。

利用状況

※11月2日利用
※11月3日利用
日帰り、個人利用を
除く

3月(87グループ、延六、一八一)

成蹊大学文化会リーダースキャン	武内 成
東京工業大学助教	千葉大学助教
東京大学助教	中央大学レスリング部
日本大学講師	明治学院大学教授
明治大学助教	清泉女子大学茶道部
東京大学助教	専修大学教授
東京大学思想研究会	専修大学教授
横浜国立大学体育系サークル指導者	中央大学受験生
セミナー	中央大学共同セミナー
淑徳大学就職セミナー	キリスト者の学生会全国集会
お茶の水女子大助教	現象学の社会学研究会
青山学院大学教授	フランス語教育振興協会
東京学芸大学助教	全国学生ME研究会
早稲田大学助教	大学院仏語セミナー
早稲田大学理工英語会	東京松本英語専門学校
帝京大学明日の会	文学教育研究者集団
東京大学比較文学・比較文化研究室	日本エル・シー・エー
中央大学講師	多摩中央信用金庫**
国際基督教大学助教	富士電機
東京外国語大学助教	ウチダコンピュータシステム
早稲田大学雄弁会	酒井薬品*
中央大学助教	生活協同組合都民生協
日本大学講師	中央・バル自動車
国際基督教大学助教	石川島播磨重工業
東京外国語大学助教	オリパス光学工業八光会
早稲田大学雄弁会	文化シャッター多摩支店
中央大学助教	田村電機製作所
法政大学教授	ヒノキ新薬
早稲田大学教授	東京都教職員組合南多摩支部
佐藤 康男	日本電気航空宇宙システム
大槻 義彦	システム・インテグレート
大槻 義彦	東都生活協同組合
大槻 義彦	雪印物産
大槻 義彦	銀座山形屋
大槻 義彦	ホソカワミクロン
大槻 義彦	ヒューマンライフセンター
大槻 義彦	スパーアルプス
大槻 義彦	昭和飛行機工業
大槻 義彦	昭和66グループ、延六、一三四人
大槻 義彦	中央大学国際交流センター新人留学
大槻 義彦	生オリエンテーション
大槻 義彦	青山学院大学教授
大槻 義彦	羽田 三郎

杏林大学助教	石川 信男
千葉大学助教	上智大学教授
中央大学レスリング部	奥田 健二
明治学院大学教授	杉野女子大学教授
清泉女子大学茶道部	田村 皖司
専修大学教授	東京薬科大学新入生歓迎キャン
専修大学教授	東京学芸大学語研究会
中央大学受験生	東京学芸大学助教
中央大学共同セミナー	明治学院教授
キリスト者の学生会全国集会	中央大学教授
現象学の社会学研究会	中央大学教授
フランス語教育振興協会	青山学院大学教授
全国学生ME研究会	千葉大学助教
大学院仏語セミナー	千葉大学助教
東京松本英語専門学校	千葉大学助教
文学教育研究者集団	千葉大学助教
日本エル・シー・エー	明治学院教授
多摩中央信用金庫**	中央大学教授
富士電機	成蹊大学助教
ウチダコンピュータシステム	東京学芸大学助教
酒井薬品*	明治学院教授
生活協同組合都民生協	中央大学教授
中央・バル自動車	成蹊大学助教
石川島播磨重工業	青山学院大学教授
オリパス光学工業八光会	日本大学水泳普及研究会
文化シャッター多摩支店	立教大学観光学科新入生オリエ
田村電機製作所	テニション
ヒノキ新薬	早稲田大学助教
東京都教職員組合南多摩支部	早稲田大学助教
日本電気航空宇宙システム	早稲田大学講師
システム・インテグレート	千葉大学武蔵・柿原ゼミ
東都生活協同組合	国際基督教大学教育哲学研究室
雪印物産	早稲田大学助教
銀座山形屋	杏林大学保健学部フレッシュマン・
ホソカワミクロン	セミナー
ヒューマンライフセンター	青山学院大学教授
スパーアルプス	駒沢大学仏教学部新入生オリエ
昭和飛行機工業	テニション
昭和66グループ、延六、一三四人	東京都立大学法学部新入生歓迎セ
中央大学国際交流センター新人留学	ナー
生オリエンテーション	日本女子大学家政経済学科新入生オ
青山学院大学教授	リエンテーション
羽田 三郎	中央大学助教

石川 信男	中央大学教授
奥田 健二	東京都立大学機械工学科新入生研修
田村 皖司	中央大学カールトン・ゼミ
東京薬科大学新入生歓迎キャン	東京都立短期大学経営学科第二
東京学芸大学語研究会	部新入生オリエンテーション
東京学芸大学助教	日本女子大学社会福祉学科新入生オ
明治学院教授	リエンテーション
中央大学教授	東京学芸大学助教
中央大学教授	工学院大学助教
青山学院大学教授	埼玉大学助教
千葉大学助教	青山学院大学青山キリスト教学生会
千葉大学助教	東京学芸大学国際文化教育課程新入
千葉大学助教	生合宿研修
明治学院教授	東京農工大学助教
中央大学教授	中央大学教授
成蹊大学助教	駒沢大学助教
東京学芸大学助教	芝浦工業大学助教
明治学院教授	東京都立工業高等学校リイダー
中央大学教授	研究会
成蹊大学助教	独協大学講師
青山学院大学教授	大妻女子大短大助教
日本大学水泳普及研究会	立教大学観光学科新入生オリエ
立教大学観光学科新入生オリエ	テニション
早稲田大学助教	早稲田大学助教
早稲田大学講師	早稲田大学助教
千葉大学武蔵・柿原ゼミ	千葉大学コンピュータ専門学校新入生オ
国際基督教大学教育哲学研究室	リエンテーション*
早稲田大学助教	東京職業訓練短期大学校生産機械・
杏林大学保健学部フレッシュマン・	金属成形科オリエンテーション
セミナー	十文字学園女子短期大学家政専攻新
青山学院大学教授	入生交歓会
駒沢大学仏教学部新入生オリエ	テニション
東京都立大学法学部新入生歓迎セ	ナー
ナー	東京純心女子短期大学音楽・美術学
日本女子大学家政経済学科新入生オ	科新入生オリエンテーション
リエンテーション	東京YWCA専門学校英語科新入生
中央大学助教	オリエンテーション
中央大学助教	共立女子第二中学校生徒会
中央大学助教	マイン劇団JVC
中央大学助教	河合塾国際教育センター
中央大学助教	東都生活協同組合
中央大学助教	システム・インテグレート
中央大学助教	市光工業
中央大学助教	タナベ経営東京本部
中央大学助教	富士土地
中央大学助教	グリッドハウス
中央大学助教	アスター精機
中央大学助教	アイワールド

5月(89グループ、延五、八一五人)

慶応義塾大学国際センター留学生オ	武蔵工業大学電子通信工学科新入生
慶応義塾大学国際センター留学生オ	歓迎セミナー
慶応義塾大学国際センター留学生オ	東京都立大学助教
慶応義塾大学国際センター留学生オ	中央大学講師
慶応義塾大学国際センター留学生オ	中央大学経済学会
慶応義塾大学国際センター留学生オ	中央大学助教
慶応義塾大学国際センター留学生オ	駒沢大学助教
慶応義塾大学国際センター留学生オ	日本大学芸術学部朗読研究会
慶応義塾大学国際センター留学生オ	学芸院大学教授
慶応義塾大学国際センター留学生オ	中央大学経理研究所
慶応義塾大学国際センター留学生オ	法政大学ドイツ文学科新入生オ
慶応義塾大学国際センター留学生オ	リエンテーション
慶応義塾大学国際センター留学生オ	東京経済大学税理士受験会
慶応義塾大学国際センター留学生オ	共立女子大学自主勉強会
慶応義塾大学国際センター留学生オ	学芸院大学シエクスピア劇研究会
慶応義塾大学国際センター留学生オ	法政大学会計学研究会
慶応義塾大学国際センター留学生オ	日本大学教授
慶応義塾大学国際センター留学生オ	東京女子大学助教
慶応義塾大学国際センター留学生オ	武蔵大広告研究会
慶応義塾大学国際センター留学生オ	芝浦工業大学電子計算機研究会
慶応義塾大学国際センター留学生オ	立教大学助教
慶応義塾大学国際センター留学生オ	東京都立大学数学科新入生オ
慶応義塾大学国際センター留学生オ	リエンテーション
慶応義塾大学国際センター留学生オ	中央大学講師
慶応義塾大学国際センター留学生オ	駒沢大学助教
慶応義塾大学国際センター留学生オ	東京学芸大学電子工学科新入生研修
慶応義塾大学国際センター留学生オ	埼玉大学機械工学科新入生合宿研修
慶応義塾大学国際センター留学生オ	東京経済大学助教
慶応義塾大学国際センター留学生オ	東京学芸大学国際センター留学生オ
慶応義塾大学国際センター留学生オ	科新入生歓迎セミナー
慶応義塾大学国際センター留学生オ	津田塾大学国際関係学科フレッシュ
慶応義塾大学国際センター留学生オ	マン・キャン

編集後記

見事な昆虫の画が本号の表紙を飾ります。東京学芸大学生物学教室の林慎久君の手になるものですが、15年に亘り新入生オリエンテーションをこの丘で実施されている誼で、生物学の監尚禮教授(現教育学部長)が一肌脱いで下さり実現しました。本紙のデザインを全面改訂して三年、このような力強い援護射撃によってキャンパスの自然や活動が反映される表紙をと、編集子の意気も上ります。

そのような折に、本紙に表紙が極めて類似した学報を手にしました。大学の個性化がこれほど叫ばれながら、たかが学報というのでしょうか。機関紙の表紙は、その団体の性格や事業をそれとなく伝えてくれる重要な顔といえます。大学の知性にはデザインへの感覚や尊敬が欲しいものです、心算し出来る事もあり



ました。「建築文化」六月号は創刊五〇〇号を記念して、戦後四〇余年の秀作20選を特集、大学セミナーハウスはその一つに選ばれました。「吉阪は戦後のモダニズムを、(原始へ向かう)ことで越えようとした」とは、その選者評です。梅雨空の明けやらぬ7月15日、フランスから建築ジャーナリストら三名の来訪を受けました。写真ではわからない建物の細部のデザインに感嘆し、教師館の屋上の形状と国際セミナー館の屋根に描かれている「天の川」にはとりわけ心ひかれるもののようにでした。吉阪はコルビュジェを越えている」との言葉を残して、ハウスを後にされました。

右の写真は、遠来荘の茶会を終えてセミナー室に向う学生たちです。この日、この丘を訪れる国内外の学生たちに茶道を紹介して下さっていた矢内宗紫先生のお姿はありませんでした。約一年間病床にあって、四月一日、67歳で不帰の人となられた先生の生前のご奉仕に感謝して、先生のご冥福を祈るものです。なお、遠来荘の月例茶会はお弟子さんたちによって引き継がれることになりました。(能)

予 告

●第15回国際学生セミナー

主題 〈開かれた〉日本・総点検——日本は何ができるか——
期日 1988年10月28日～30日(金～日)

◇ゲスト講演
政府開発援助(ODA)を通して日本は何ができるか
外務省内閣外政審議室長 藤田公郎氏

◇セクション演習

- A. 海外援助——政策と現場——
上智大学外国語学部教授 村井吉敬氏
青年海外協力隊事務局次長 豊島一郎氏
- B. 留学生10万人受入れ計画と日本の大学教育
東京大学教養学部教授 平野健一郎氏
東京大学工学部教授 西野文雄氏
- C. 女たちと国際化
フィリピン大使館一等書記官
ゼン・アングラ氏
津田塾大学学芸学部教授 菊地京子氏
- D. 第三の開国——外国人労働者問題——
お茶の水女子大学教育学部教授 宮島 喬氏
法務省入国管理局総務課長補佐 山神 進氏
(運営委員)
東京外国語大学外国語学部教授 宇佐美 滋氏
他5名

●第145回大学共同セミナー

主題 東アジアにおける国際関係
——日韓・日朝交流史から学ぶもの——
期日 1988年11月11～13日(金～日)
(運営委員)

国際基督教大学教養学部教授 笹川紀勝氏
◇問い合わせ先=企画室 ☎0426-76-8532

- 津田塾大学英文文学科フレッシュマン・キャンパス
- 東京学芸大学生物学教室新入生合宿研修
- 東京学芸大学自然環境科学専攻新入生合宿研修
- 東京学芸大学物理学教室新入生合宿研修
- 東京学芸大学理科大学教育新入生合宿研修
- 東京理科大学教授 狩野 紀昭
- 東京都立商科短期大学商学科第二部 新入生歓迎合宿
- 明治大学21世紀政治フォーラム
- 明治大学教授 藤芳 誠一
- 中央大学Aix短期留学生研修
- 東京都立商科短期大学商学科新入生歓迎合宿
- 文京女子短期大学英語英文学科学新入生オリエンテーション*
- 東海大学西洋史学科新入生研修
- 東京薬科大学薬学部フレッシュマン・セミナー*
- 東京都立科学技術大学機械システム
- 工学科新入生オリエンテーション
- 津田塾大学数学科フレッシュマン・キャンパス
- 東京学芸大学数学教育学科新入生合宿研修
- 東京学芸大学教育情報専攻新入生合宿研修
- 法政大学近現代史研究会
- 武蔵工業大学教職員課程セミナー
- 芝浦工業大学教授 高橋 清
- 駒沢大学教授 萩野 源一
- 早稲田大学教授 鴨 邦彦
- 日本女子大学教授 中島 武邦
- 青山学院大学講師 富田 功
- 法政大学教授 伊藤 玄三
- 東京電機大学電気通信工学科新入生研究会
- 馬場 宣良
- 文京大学女子短期大学部英語英文学科フレッシュマン・セミナー
- 東京都立大学物理学科新入生オリエンテーション
- 東京都立大学化学科新入生オリエンテーション
- 中央大学教授 高窪 利一
- 明治学院大学社会学部第二部フレッシュマン・キャンパス
- 明治学院大学教授 津田 博士
- 東京理科大学教授 富澤 稔
- 高津看護専門学校
- 桜美林大学体育文化団体連合会
- 阿佐ヶ谷美術専門学校
- 東京商船大学機関学科在来生オリエンテーション
- 日本学生経済ゼミナール東京部会
- シヨウジョウバエ変異原研究会
- 朝日カルチャーセンター
- ルソール合奏団
- 劇団JVC
- V研究会
- 工業所有権研究会
- ヒューマンライフセンター
- ECC外語学院
- 日電物流センター
- 小松ゼノア
- 多摩中央信用金庫
- オリンピック光学工業
- 日電アネルバ